

羽毛製品講習会を開催しております。

【羽毛ふとんの知識啓発事業】

日羽協では、消費者関係機関等において、消費者の皆様を対象として実施されている消費者講座などに「羽毛製品アドバイザー」を派遣しております。講習会や講座を通して「羽毛製品の正しい知識、選び方、取り扱い方」などの疑問点やご質問にお答えすると共に、多くの消費者ならびに各関係機関のみなさまに羽毛製品を正しくご理解いただいております。是非、羽毛製品講習会をご活用くださいますようご案内申し上げます。

1 主な講座内容

羽毛製品(羽毛ふとん、ダウンウェア関係)の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般。

2 講師派遣に関する費用及び人数

講師派遣に関する費用は無料です。ただし、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約30名以上。講演時間は、約120分程度です。

3 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じ「羽毛製品アドバイザー」を派遣致します。
電話 03-5649-2285(日本羽毛製品協同組合)

主な活動実績

講習会主催者	講習会会場
兵庫県福崎町消費者の会	兵庫県福崎町立生活科学センター
福岡県宗像市消費者支援ネット宗像	福岡県宗像市消費生活センター
愛知県豊橋市安全生活課	愛知県豊橋市役所
京都府消費生活安全センター	京都府京都市京都テルサ
京都府京田辺市消費生活相談室	京都府京田辺市立社会福祉センター

このほか、企業内での講習会にも羽毛製品アドバイザーを派遣いたします。
詳細は日羽協までお問い合わせください。



日本羽毛製品協同組合

日羽協ニュース

[編集発行] 日本羽毛製品協同組合

[事務局] 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

羽毛製品講演会を開催いたしました。



日本羽毛製品協同組合(日羽協)では、平成27年11月27日(金)に、第7回目となる羽毛製品講演会を開催いたしました。当日は組合員・賛助会員・関係団体42社から78名が参加しました。開会に際し、日羽協理事長柳場弘より挨拶があり、続いて、弁護士の藤井大悟氏より講演がありました。

講演では、執行力強化のため改正法が施行され、今後、さらに不当表示に対する課徴金制度の施行を控えている景品表示法を主として表示規制への対応等をわかりやすく解説していただきま

した。今回は、加盟各社の実務面において大変有意義な内容で、参加者からも大変好評でした。



藤井大悟氏プロフィール

2004年4月 公正取引委員会勤務
2008年3月 東京大学法科大学院修了
2010年1月 TMI 総合法律事務所勤務

ダウンウェアのお手入れ

冬場のファッショの定番、寒い時期の外出に重宝する

ダウンウェア。決して安価なものではありませんので、正しいお手入れで長くお使いください。日頃のお手入れを忘れずに、いくつかの注意点を守れば、いつまでも暖かくダウンウェアをお使いいただけます。



冬、毎日のお手入れ

ぬれたらすぐに拭き取る

雨や雪でぬれた際には、できるだけ早く水分を拭き取りダウンが固まらないように手で軽くほぐし形を整えて干してください。

日頃から十分な乾燥を

着用後のダウンウェアは湿気を含んでいます。湿気が多い状態ですと羽毛が蒸れてにおいが発生する場合があります。また、羽毛自体の品質を損なってしまいます。着用後はハンガーにかけて十分に乾燥させてください。

シーズンオフのお手入れ

クリーニングは正しく

ダウンウェアの品質表示には、洗濯方法が記載されています。表示に従った方法でクリーニングを行ってください。

ビニール袋は厳禁

ビニール袋での長期保管はお避けください。通気性がないとおいやカビの原因となり、羽毛自体の品質を損ないます。通気性のあるきれいな布を掛けるか、専用のカバーを使用してください。

押しつぶさないで

袋などに押し込んで圧縮させた状態での保管はやめましょう。羽毛のかさ高性が低下して、本来持つ羽毛の性能を十分発揮できなくなります。ハンガーにかけての保管や、押し入れの中の一番上に置いての保管をおすすめします。

より長くお使いいただくために

ダウンの特性を維持するために必要な油脂分は、洗濯することに少しずつ落ちてしまいます。そのため、より長く着用していただくためには、日頃から清潔に使い、洗濯の頻度を抑えることが大切です。クリーニングについては、家庭で洗うのは避け、専門店へ依頼することをおすすめします。

ふとんの丸洗いは、安心できるクリーニング店で

寄稿:全国ふとんクリーニング協会

長年使った羽毛ふとんは、丸洗いすることで、汚れが落ちるだけでなく中の羽毛の性能もよみがえります。全国ふとんクリーニング協会では、消費者の皆様に安心してふとんクリーニングをご利用いただけるよう、仕上がり品の品質基準やガイドラインを設けていますので、羽毛ふとんの丸洗いは、全国ふとんクリーニング協会会員の工場をご利用ください。

定期的な測定で信頼できる品質を確保

■洗い上がったふとんのダニアレルゲン量測定

全国ふとんクリーニング協会会員の工場では、洗い上がったふとんの中から、定期的に抜き取り検査を行い、縫い取り部分周辺のダニアレルゲン量を測定しています。測定結果は所定の品質管理表に記録。基準値を達成していない場合は再洗いするよう指導を行っています。

・基準値 判定値2以下

(WHO世界保健機構の基準に準拠)

・使用器具 ダニスキャン(ダニアレルゲン測定器具)

・測定頻度 週1回以上

■最終すすぎ水の透視度の測定

透視度計という水の清浄度を測定する器具を使い、すすぎの最終段階のすすぎ水を採取し、その透視度を測定します。

・基準値 透視度300mm以上

・使用器具 透視度計(300mm以上)

・測定頻度 週1回以上

入荷時・仕上り時の検品に関する指針

全国ふとんクリーニング協会会員は、クリーニングを請け負うすべてのふとんについて、入荷時(ふとんをお預かりした時)及び仕上り時に、少なくとも次に掲げる項目の点検を行うことを指針としています。

A.入荷時の点検項目

- ①破れやほつれ、そのおそれはないか
- ②色のにじみ・付着や脱色、そのおそれはないか
- ③縮みやヨレ、そのおそれはないか
- ④中綿・側地の素材はなにか
- ⑤ノンキルトかどうか(羽毛ふとん)
- ⑥電気コードが付いているかどうか

以上6項目を点検のうえ必要な場合は、お客様に対し連絡と確認を行うよう指導しています。

B.仕上り時の点検項目

- ①入荷時になかった破れやほつれはないか
- ②脱色や移染はないか
- ③中綿の縮みやヨレはないか
- ④落とせる汚れは残っていないか
- ⑤乾燥が不十分ではないか
- ⑥悪臭はしないか
- ⑦洗剤ヤケなどはないか
- ⑧纖維の硬化はないか
- ⑨髪の毛などの異物は混入していないか

このように、全国ふとんクリーニング協会では、お客様に安心してふとんクリーニングをご利用いただけるよう、様々な活動を続けています。

全国ふとんクリーニング協会

東京都大田区東雪谷3-12-16

電話03(3726)0872

羽毛ふとんの側生地について

羽毛ふとんの側生地は、羽毛の特性を活かすために薄手でソフト、かつ、羽毛を噴き出さないようにしながら通気性を保つため、細い糸を高密度に織ったものが使われます。羽毛同様、側生地にも様々な種類がありますので、羽毛ふとん選びの際に、参考にしていただけますよう紹介します。

糸の太さ

一般的に生地にするための糸の太さを番手と言いますが、繊維の種類により呼び名が異なります。

● 恒重式(呼称:番手)

綿糸、絹紡糸など、短纖維の紡績糸に使用されます。基準重量1ポンド(約453g)、単位長840ヤード(768m)の糸を1番手と呼びます。40番手は1ポンドが33,600ヤード、100番手は1ポンドが84,000ヤードとなり、番手が大きくなるほど糸は細くなります。

● 恒長式(呼称:デニール)

絹糸(生糸)やポリエステルなど、長纖維の糸に使用されます。基準長450m、単位重量0.05g(9,000mで1g)の糸を1デニールと呼びます。9,000mで70gなら70デニール、9,000mで100gなら100デニールとなり、デニール数が大きくなるほど、糸は太くなります。

生地の織り方

生地には様々な織り方があり、織り方により風合いや手触り、見た目の特徴が異なります。

● 平織り(ブロード)

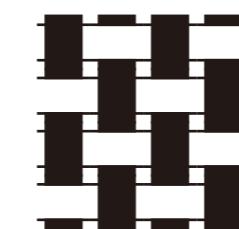
経糸と横糸が1本ごとに交錯する織り方です。比較的薄く、丈夫な布地ができ上がります。

● 縞織り(ツイル)

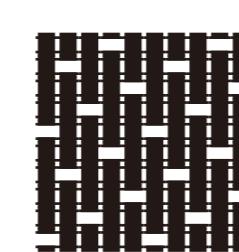
3本以上の経緯糸を上下に組み合わせた織り方で、布面には斜めに走る線が現れます。しわになりにくく、厚手の布地ができ上がります。

● 繻子織り(サテン)

経糸と横糸が4本以上飛んでから交差し、交差する場所が互いに隣接しないように規則的に配置された織り方です。光沢があり、柔軟な手触りの布地ができ上がります。



平織り(ブロード)



縞織り(ツイル)



繰子織り(サテン)

質の良い眠りについて

睡眠は「明日を快適に過ごすために必要な時間」

「寝つきが悪い」、「朝スッキリ起きられない」など、睡眠についての悩みをお持ちのお方は多いようです。では、睡眠を長くとればいいでしょうか。必ずしもそうではなく、一日の睡眠時間は、成人で8時間が理想的と言われています。しかし日本人は忙しすぎるのか、OECD(経済協力開発機構)が2014年に発表した調査結果では、平均睡眠時間は7時間43分と、調査対象26ヶ国中2番目に短いという結果が出ています。

寝る時間が足りないのはいけないこと?いいえ、大切なのは、睡眠の質なのです。睡眠時間は活動停止の時間ではなく、脳や体をリセットし「明日を快適に過ごすために必要な時間」なのです。そのため、脳と体を休めて質の良い睡眠を取ることができれば、毎日を快適に送ることができます。

質の良い睡眠を取るために

● 起床から11時間以降の仮眠を取らない

起床から11時間以降に仮眠を取ってしまうと睡眠に対する欲求が落ち着いてしまい、夜眠るときに寝付けないなど、睡眠の質が大幅に下がってしまいます。

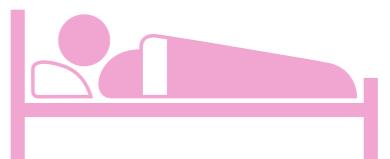


● 眠る1時間前にはリラックス

スマートフォンやテレビゲーム、熱い風呂に入るのは脳や体を興奮させます。軽いストレッチや風呂ならぬるま湯に、間接照明にしてリラックスすると、眠りに入りやすくなります。

● 重要なのは睡眠直後から3時間

入眠時には脳の情報処理時間といわれる「ノンレム睡眠」、続いて1~2時間脳が完全に休養する「レム睡眠」が現れます。これを繰り返し、眠りが浅くなって目を覚します。また、睡眠直後から3時間は細胞の再生と修復を行う成長ホルモンが活発に動き、ふとんに入ってすぐの3時間の眠りを大切にしましょう。



グースとダックの農場からのレポート



皇室と鴨の只ならぬ関係

皇室が日本の伝統的な鴨猟の継承と野生鴨の保護を目的として鴨場(かもば)を所有している事をご存知でしょうか。

皇室所有の鴨場は埼玉県越谷市(埼玉鴨場)と千葉県市原市(新浜鴨場)にあり、伝統的鴨猟の継承と野生鴨の保護のための施設となっています。これら鴨場には毎年1万羽を超える野生鴨が越冬のため飛来しているそうです。

我が国は古来より網や鷹を使って鴨を捕獲してきました。江戸時代には將軍家を中心に鴨を傷つけなく捕網によって捕獲する技法が発達してきました。こうした技法を明治以降皇室が継承し今日に伝えているのです。

皇室鴨場で行われている技法は元溜(もとだまり)と呼ばれる約3,600坪(約12,000平方メートル)の池に集まった野生の鴨を訓練されたアヒルを使い引掘に誘導し、絹糸で作られた叉手網(さであみ)と呼ばれる手持ちの網を用いて鴨が飛び立つところを捕獲するものです。捕えられた鴨は国際鳥類標識調査に協力して種類、性別などを記録し、標識(足環)を付け、すべて放鳥しています。

又、鴨場は国内外の賓客接遇の場としても用いられています。毎年11月15日から翌年2月

15日までの狩猟期間には各国の外交使節団の長、わが国の閣僚、国会議員、最高裁判所判事等を接遇し、この独特の技法で自ら鴨を捕獲します。鴨場は日本の古来から伝わる鴨を傷つけない捕獲方法を披露し日本の文化、伝統、歴史に触れてもらうために、皇室自らが行う「皇室接遇」の場となっているのです。

獵期外には年1回地元住民の為の施設見学会を行うなど、鴨場は市民の自然保護観察の場としても活用されていますので、ご興味のある方は越谷市役所広報公聴課市政移動教室まで問い合わせてみてはいかがでしょう。但し聞くところによると、かなり申し込みが殺到するので抽選の倍率が高いようです。

余談になりますが鴨場接遇の際、鴨の捕獲、放鳥の後午餐が催されます。メニューは皇室風鴨のお狩場焼きだそうです。合鴨肉を炭火で熱した鉄板の上で焼くシンプルなものようです。因みに、ここで供される鴨肉は鴨場で捕獲したものではなく、別途調達したものとのことです。

このように日本の皇室は野生鴨の庇護者として密接な関係があり、鴨場を維持運営することで自然保護の一端を担っているのです。

「品質の良い羽毛」



羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。羽毛ふとんのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。今回は、品質の良い羽毛を作るための苦労について…。

ませんが、食肉としての需要はというと年々下降線をたどっています。そのため、量的な問題がここにきて浮上しています。

羽毛の品質は世界規模で大きく動こうとしています。それは原油の高騰から始まっています。ガソリンの値上がりによる輸送コストの上昇で、ガソリンの代替燃料化が進み、ガソリン代替燃料化となるアルコール燃料の実用化、アルコール燃料の実用化による原料となるトウモロコシ需要の拡大、トウモロコシ需要の拡大によるトウモロコシ価格の高騰、トウモロコシ価格の高騰からくる餌の値上がり、餌の値上がりによる生産コストの上昇、生産コストの上昇を抑えるため飼育期間の短縮、飼育期間の短縮による羽毛の未熟化、そして、最終的には未熟羽毛が増えることにより影響を受けるのは、羽毛の品質であり良質の羽毛が少なくなると云うことです。石油が上がれば羽毛の質が下がる。「風が吹けば桶屋が儲かる」みたいなものですね。

品質の良い羽毛とは、原料となる良質な羽毛を高度な技術によって精毛された羽毛のことをいいます。単に良質な原料の羽毛がそのまま品質の良い羽毛になるわけではありません。原料と技術が高い次元で融合して初めて高品質の羽毛が出来上がります。精毛技術とは、羽毛を傷つけことなく、不要なものを取り除き、限りなく良質なダウンだけを残すことです。